

「10th Anniversary !」



接戦を制し開幕戦の勝者に！ #111



強豪チームが 1+2C に来襲 #110



嬉しい初表彰台 #4



3位までは届かず #70

10年目の2017K耐久/GT耐久東海シリーズが今年も開幕。小型・普通車を使う耐久シリーズとしては稀有な存在として、10年の長きにおいてシリーズが開催されてきたことに各方面に感謝申し上げます。

ところで、シリーズが開催される愛知県蒲郡市は、プロ野球ソフトバンクの千賀滉大投手の出身地でもあるんです。WBCでも大活躍した千賀投手、本当に熱い投球をしていましたね。

そんなWBCにも負けぬ熱い走りを見せてくれるこのシリーズ、今年はどんなドラマが待っているのだろうか。

気温はまずまずだが少々風の強い、早春の蒲郡に熱き風が吹く。

「1+2C」クラス（1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc～1850ccのNA後輪駆動車のクローズドクラス）

昨年からはじめたEN(エンジョイ)クラスのアンダータイムペナルティが、昨年末までの賞典外から今年はその週の周回をカウントしないに変更となった。これで思いっきり飛ばせる(!?)

開幕戦はENクラスは出場者がなく、すべて1+2Cクラスとなった。

参加台数は10台と多く、注目は数々のクラスでタイトルを獲得してきた#110「アライメント浜松」チームがHT81Sのスワフトスポーツで1+2Cクラスに参戦。迎え撃つのはゼッケン#111となった「T-FACTORY」チームのGD3フィット、#70「ウエリース」EK3シビックなどの強敵が揃う、はたして勝負の行方は。

■予選

予選トップは#111「T-FACTORYフィット」1'02.958、いよいよこのクラスも02秒台へ突入。2位は#110「アライメント浜松スワフト」1'04.009、これでも十分速いのだがそれでも2番手。

3位は#11「アンリミDXLシビック」1'04.992、EG世代の1500。エンジンはD15Bで基本的にはEK3と同じ

4番手は#4「ミュルサンヌロードスター」NA6ロードスター 1'05.307、一昔前は1+2Cクラスはこのくらいのタイムでも予選上位だったのだが、本当に速くなった。

5位#70「ウエリースシビックGT」1'05.990、6位1クラスマシン#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」1'06.661、7位#50「MSCJ 奈良ロードスター」こちらもNA6で1'07.389、ここまで全体のグリッドのなかでも1+2Cクラスが続く。

8位#16「えっ！テンロク？ロードスター」1'09.250、大丈夫ですよ、今回ロードスターたちはみんなテンロクですよ～

9位#36「MSC ヴィッツ」こちらも1クラスマシンで1'07.389、10位は#67「みかんちゃんデミオ」1'32.183、トラブルで出遅れてしまったが、本来のポテンシャルを発揮してほしい。

この中で2台のヴィッツはともにリッターカーなので義務ピットは3回。

さあ史上最大の混戦バトル、勝利の栄冠をつかむのはどのチームだ。

Race Report

GT CAR PRODUCE

■序盤

予選トップからポジションを守る#111「T-FACTORY フィット」、それを追う#110「アライメント浜松スィフト」、早くも2強の激突だ。

3番手以下も接戦、#16「えっ！テンロク？ロードスター」を筆頭に#4「ミュルサンヌロードスター」、#67「みかんちゃんデミオ」と続き第2集団を形成か。

その下には#70「ウエリースシビック GT」、#50「MSCJ 奈良ロードスター」と続き、#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」、#36「MSC ヴィッツ」、ここにはヴィッツが並ぶ。予選3番手だった#11「アンリミ DXL シビック」は序盤からマシンの不調か、ペースが上がらずピットでの調整もしばしば。

■中盤

中盤では#111「T-FACTORY フィット」が着実に首位固め、時には総合の首位を周回するなど速さも披露。

追いつきたい#110「アライメント浜松スィフト」だが、「今回はちょっと厳しいなあ…」とチーム関係者が思わず漏らすほど、なかなか差がつかまらない。

3位は#4「ミュルサンヌロードスター」4位#70「ウエリースシビック GT」。このあたりの表彰台争いも激しさを増す。

5位#16「えっ！テンロク？ロードスター」、6位#67「みかんちゃんデミオ」の2台も接戦を演じている。さらに7位#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」も追走。

8位#50「MSCJ 奈良ロードスター」、9位#36「MSC ヴィッツ」。

#11「アンリミ DXL シビック」はやはり厳しいか、だが、ピットで懸命の作業が続く。

■終盤

ゴールまであと1時間、トップは相変わらず#111「T-FACTORY フィット」がキープ。#110「アライメント浜松スィフト」はピットストップの間に並びかけるが、形勢逆転までは至らない。

#70「ウエリースシビック GT」と#4「ミュルサンヌロードスター」、#16「えっ！テンロク？ロードスター」、の3位争いも激化、同一周回で鏝迫り合い、このなかで勝ったものが表彰台だ。

しかし後続でもあちこちで僅差の競り合い、#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」、#67「みかんちゃんデミオ」、#36「MSC ヴィッツ」、#50「MSCJ 奈良ロードスター」、ここは綺麗に1Lap づつ並んでいる。本当に混戦模様だ。



1 クラスマシン #39



デミオで孤軍奮闘 #67



こっちの NA は黄 #50



こちらのヴィッツも1クラスマシン #36

一時は総合首位を走る

Race Report



■最終結果

最後まで接戦を演じた2台だったが、#111「T-FACTORY フィット」がなんとか振り切って開幕戦のウィナーに。

最後は1Lap だった#110「アライメント浜松スィフト」、敗れはしたが、レース中の最速タイムではクラストップを記録、意地を見せた。

3位表彰台争いに残ったのは#4「ミュルサンヌロードスター」。#70「ウエリースピック GT」は一步及ばず4位。5位には#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」。

6位#67「みかんちゃんデミオ」、7位#50「MSCJ 奈良ロードスター」、8位#36「MSC ヴィッツ」。

9位は最終盤まで3位を争っていた#16「えっ！テンロク？ロードスター」、トラブルと思われるが最終ステントで失速。ホワイトラインカットペナルティもあってこの位置でのフィニッシュ。

ピットにいる時間が長かった#11「アンリミ DXL シビック」も最後はチェッカーを目標してコースイン。規定周回数には届かなかったが最後はゴール。

■総評

僅差のトップ争いというのは、#110がクラスチェンジしてきた時点で予想はできたが、それ以上の熱い戦いになった。優勝争いだけでなく、どのポジションでも熱いバトルが繰り広げられたのが印象的な開幕戦。

今回は出場していないが、昨年のチャンピオンの#411 スィフトスポーツや、#21 スターレット、そして一昨年のチャンピオンであり、昨年も数少ない出場で優勝を飾った#15のフィット(GE型)など、猛者がいる。

これらとのバトルが目に見える日を楽しみしている。



NB でテンロクってところがみそですね #16



3位争いも白熱



懸命の作業で何とかレース復帰！ #11



1+2C クラス



久しぶりの優勝！ #62



ターボパワーは魅力 #20



さすがの表彰台 #106



開幕戦は 4 位 #77



終盤にはタイヤ交換も #405

「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクロズドクラス）+「OP」クラス

今年から3CクラスとOPクラスを同一クラスに統合することに。ただし、ピットストップハンデとしてOPクラスマシンは一回のピットストップ時間が30秒長い(回数は4回と同じ)

開幕戦に参加する6台マシンのうちOPクラスが4台、3Cクラスが2台という分布となっている。

■予選

予選トップは#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」(3C)が1' 01.889、3Cクラスのチャンピオン経験もあるクラスを代表するチームの一つ。昨年は優勝なしノーポイントレースも2回という不本意なシーズンとなってしまっただけに、今回はリベンジだ。全体のPPは幸先が良い。

2位は#20「九興自動車☆マイマイ☆MR2」(OP)1' 01.987、こちらはGT耐久シリーズでは珍しいターボ車&MR。シリーズ参戦経験も豊富でさすがに速い。心配なのは繊細な操縦性とタイヤなどの耐久性か。

3位には#106「D&M スパイクオート 106」(3C)1' 03.588、こちらもまた当シリーズを代表するチーム、今大会では唯一のインポートカーを駆る。知り尽くした106をどこまで押し上げることができるか。

4位は#405「インフィニティ FX」(OP)1' 04.633、「昭和の」といっていたら平成の年式ですと指摘された(失礼)、5バルブ4A-Gに換装した、青春のマシン。

5位#77「ウエリース ロードスター GT」(OP)1' 04.675、ウエリース軍団の1台、ENクラスからステップアップで新たな挑戦。

6位は#58「小林板金 EG6」(OP)1' 08.729、昨年はポイント獲得ができなかったが、実力には定評があるところ。

■序盤

スタートで#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」をかわして#20「九興自動車☆マイマイ☆MR2」がトップに立つ。ところで車名に☆を入れるのが流行ってます？

3番手を走っていた#106「D&M スパイクオート 106」は早速ルーティンのピットへ入り6番手に。

その間に軽やかな4A-Gサウンドを響かせて#405「インフィニティ FX」が3位に上がる。

4位は#77「ウエリース ロードスター GT」、昨年ENクラスで積んだ経験を活かしてこのまま上位を走れるか。

5位#58「小林板金 EG6」、予選は今ひとつスピードが足りてなかったようだが、最初のステントで05秒台に入れて調子が上がってきた。

■中盤

中盤ではトップ2台が激しく競り合う。若干ながら#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」が優勢か。しかしながら#20「九興自動車☆マイマイ☆MR2」も同一周回で再逆転を狙う。

3位争いは#106「D&M スパイクオート 106」と#77「ウエリース ロードスター GT」の2台に#405「インフィニティ FX」が絡む。この競り合いに勝ったチームが表彰台に登ることができる。

6位#58「小林板金 EG6」も、決定的に離されているわけではない。まだまだ諦める時間帯ではないぞ。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

終盤で抜け出したのは#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」、じわじわと引き離しにかかる。残り 30 分で 131Lap を走破。

#20「九興自動車☆マイマイ☆MR2」は、一旦はライバルのピットストップの間に首位に立つものの、最終スティントでは 2 番手。ゴールまでは時間が少なくなってきたぞ。この時点では 128Lap

3 番手争いは、126Lap で#106「D&M スパイクオート 106」が振り切りにかかる。

4 番手#77「ウエリース ロードスター GT」は痛恨のピットロード速度違反もあり、119Lap と水をあけられる。

5 番手#405「インフィニティー FX」にもトラブルが襲う、それまで快音を奏でていたエキゾーストが突然爆音に。サーキットの音量規制に触れるため緊急ピットインで原因を調査したところ、エキゾーストパイプが割れたとのこと。応急処置とドライバーのコントロールでなんとかゴールを目指すことに。109Lap。

6 番手#58「小林板金 EG6」もトラブルでストップ 104Lap だが、規定周回はギリギリか。



規定周回数に 1Lap 及ばず #58

■最終結果

結局最後まで走りきった#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」、151Lap を記録して見事な勝利、2 シーズンぶりの表彰台の頂点に立った。

#20「九興自動車☆マイマイ☆MR2」は 3Lap 差の 2 位、ただこちらも嬉しい、久しぶりの表彰台を Get。

3 位は#106「D&M スパイクオート 106」が生き残り、さすがの安定感を見せた。

#77「ウエリース ロードスター GT」は及ばず 4 位、#405「インフィニティー FX」109Lap で規定周回数をクリアだ。

一方#58「小林板金 EG6」は規定にあと 1Lap 及ばず、クリアならず涙をのんだ。



どのポジションでも熱いバトル

■総評

クラス統合は思いの外の接戦となった。EK シビックと SW 型 MR2 というタイプの全く異なる 2 台がトップ争いという新鮮なバトルが見られた。惜しむらくは昨年のチャンピオンである#19「YADOKARI」チームが不参加だったこと、マシンの準備ができてその雄姿を見られることを切に願うばかり。

また、まだまだこのクラスに向いたマシンもあるはず、新たな挑戦者(車)の出現を期待したい。



3C&OP クラス

